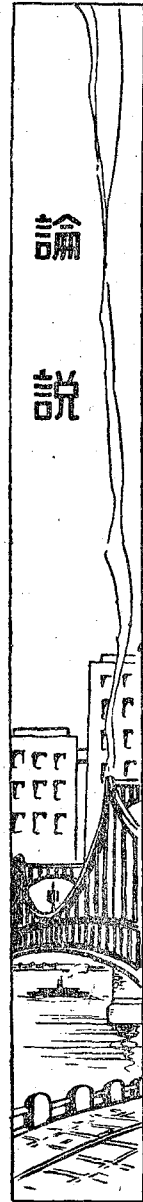


論 說



「不思議なる自動車道」について

島 田 孝 一

近代アメリカが生んだ鬼才、ノルマン・ベルゲデスは、最近「不思議なる自動車道」と名づける一書を公刊し、現在並びに將來に於ける文化國の自動車道なるものは、如何なる規模と設備とをもたなければならぬかを明らかにしたのである。今日アメリカ合衆國に於ては、自動車及自動車運送に關聯する諸問題が、社會的又は經濟的觀點よりして、極めて重要な地位を占めるのは、同國に於て運用せられつゝある自動車の輛數が三千萬輛以上に達してゐると言ふ事實から推しても、これを了解するのが容易であつて従つてこの種の問題に關する徹底的なる研究と、これに對する適切なる解決策の提供とは、何を措いても先づ圖られなければならぬ必要は非常に大きいのである。交通問題の研究

者の中、就中自動車交通に關聯する問題の研究に興味を有する人々としては、一日もこれを等閑に附するわけには行かない筈である。

筆者はこの機會に於て、著者ゲデスについて幾分かを語る必要を感ずる。彼は一八九三年にミシガン州アドリアンに生れたのであるから、日本流に數へて本年四十八歳である。青年時代には畫家となるべき教育を受け、主として肖像畫の揮毫に専念し、同時に或は廣告宣傳用の繪畫を描き、或は劇作家としても活動をつづけたのであつた。殊に劇及歌劇の裝置家としての活躍は、アメリカに於ても相當の好評を博し、更に北米映畫製作事業の中心地たるハリウツドに於て多くの映畫製作事業に關係し、時には映畫監督として、時には衣裝考案家並びに舞臺裝置家として、多くの功績を残したのであるが、一九三九年より一九四〇年に至る紐育世界博覽會が開催せられる機會に際して、始めて交通に關係ある問題を取扱ふに至つたのである。即ち自動車を使用する道路としては、如何なるものが最も理想に近いかを考案して、遂にアメリカ合衆國の大衆に彼の存在を忘れ難からしめるに至つたのである。

ゲデスが自動車運送と道路との間に介在する關係に對して興味を懷き、これが研究に専念し始めたのは、比較的最近のことであるのは前述の通りであるが、その研究の結果としてあらはれたものゝ中で、特に世人の注意を惹いた點は二つある。その第一は、昨年の紐育世界博覽會開催の機會に、ジエネラルモーターズの出品として、絶大の好評を博した *Futurama* と稱する模型であつて、これは將來の

自動車道とは如何なる内容をもつべきかを示さんとする努力のあらはれであつて、これが製作は總て彼の頭腦から湧き出したのであり、その第二は本年の始めに右の出品に關聯して樹てられた計畫をとよまとめて一書にしたのであつて、本稿に所謂「不思議なる自動車道」と言ふ著作である。

本書の内容として收められてゐる處は、先づアメリカ合衆國に於ける道路が舊時代より新時代に移るに従つて、次第にその設備又は内容を變更するに至つた歴史的變遷を説き、同時に自動車運送の實情も亦漸次變化する有様を述べ、而して更に進んで將來アメリカ合衆國として、自動車運送を完全の上にも完全なるものたらしめようとするならば、かくまでに完備した道路の建設と維持との必要があると言ふ意味で、詳細なる新計畫を提唱してゐるのである。今その主張の個々を本稿の中に記述する暇がないのは甚だ遺憾とする。筆者が本書を一讀した後の感じは、將來の計畫としても、あまりに奇想天外的の分子が含まれ、一種の空想に近い嫌がなきにしもあらずと言ふ感じもおこるのであるが、著者自身としては、飽くまでその實現性が充分に存在してゐるのを確信してゐると認められ、且これを證明するために非常に努力を拂つてゐるのである。恐らく吾々の子孫の時代ともなれば、完備した道路設備と、完全なる自動車の車輛とをもつことによつて、北米大陸の横斷のためには、二十四時間の餘裕が興へられ、ば充分である日が到來するであらうのを示さんとするが如きはその一例である。

凡そ一つの完全なる道路を建設せんとする場合に、如何程の建設費が要せられるか、或は又完全な

る道路を建設し、この上に各種の交通機關が走行を圖るとすれば、如何なる程度の動力關係の費用が生じ、且これが節約を圖るためには如何なる對策が必要であるかと言ふやうな點は、從來道路の建設の衝に當る技術家が必ず注意を拂つた點であらう。勿論自動車は完全に通過し得る道路の建設にあつても、この種の注意が必要であるのは同様であるが、たゞ自動車の走行のために特に適切なる道路を建設せんとする場合には、右の如き注意を加へる程度が一段と高くなるであらうのを注意したいのである。而して將來の自動車用道路としては、過去に於けるが如く、單に道路の普及とその改善とのみを目的としたのでは、決して充分とは言ひ難く、更に進んで眞に自動車を走行せしめるのに適切なる内容をもつ處の新しい設備があらはれるのを切望しなければならぬ點を強調してゐるのである。例へば今日の社會に於ける一般普通の道路上に於て自動車の走行を圖るとすれば一輛の自動車に對して一定距離の間に於ても、他の數百數千の自動車は、あらゆる方向より、あらゆる異なる速度の下に、一種の妨害物となつてあらはれるのを普通の有様とし、時に正面、側面、又は後方よりの衝突を惹起し、更に延いては意外に著しい災害を伴ふ虞すらも考慮せざるを得ない状態にある。此の如くして現實なる自動車の輛數の増加と、又これによつて發生するやも圖られずとする自動車事故の増加の懸念とは、自動車なる車輛の運用から甚しく有効性を奪ふに至るのである。このことは未だ我國の如き自動車の保有量の比較的僅少なる國に於ては、特に著しく世人の注意を惹くに至らないのはやむを得ざる處であるかも知れないが、アメリカ合衆國の如く數千萬輛の車輛を所有する

社會としては、今日當然に考慮しなければならぬ處であると共に將來に於ける自動車運送の發達に對してある程度の期待を以つて邁進する必要の多い本邦の立場からしても、かゝる情勢が生じ來るであらうのを現在から豫想して、且これに對する完全な對策を樹立する必要は決して一日も忽せにすべきではない。

然らば如何なる程度に道路の設備が不完全であれば、右の如き事故の發生を誘發し易いかと言ふにこれに關して著者ゲデス並びにエール大學道路運送調査局長ミラーマクリントック博士が期せずして意見の一致をみてゐるのは、次の如き四つの點である。第一は道路の交叉に關する設備の如何である。もし同一の平面に於て道路の交通が無制限に許されるとすれば、方向の異なる一つの交通の流れは、交叉點に於て混亂と危険との兩者を醸し出す虞は甚しく強いのである。第二は道路の兩端に於ける構造の如何である。例へば溝、電柱、垣根の如き各種の妨害物が道路の兩端に放置せられるが如き場合には、自動車の走行はこれがために阻害せられるのは勿論の次第であり、殊に道路の兩端に漫然たる歩行者が横行するが如きは、決してよるべき状態ではないのである。第三は同一の道路上に於て反對の方向に進行する多數の車輛を許容するが如き構造に關する設備である。かゝる設備が残ることによつて、車輛の正面衝突の危険は一段と濃厚になるのは自然の勢である。第四は同一の方向に走行する車輛が、同一の道路上に於て、異りたる速度にて走行するのを容易ならしめるが如き設備に關するものである。これは極めて主要なる原因として、車輛の運用能率の

低下と事故發生の頻度とに關聯してゐるのであるから、道路上に多くの區別された通路——即ち Lane——を設けるのは、大いに必要なる解決策の一つであるとなすのである。然るにこの區別せられた通路の數を増加せしめんとして、道路の幅員を益々擴大するのは、必ずしも事故發生の機會を減少せしめるにはあらずして、時にはこの機會を増加せしめる傾向すらなきにしもあざざるのを注意したいのである。アメリカ合衆國の經驗によるならば、二個の區別せられた通路をもつ道路上の一定距離内に生ずる自動車事故數三に對して、三個以上の區別せられた通路をもつ道路上の同じ距離内に生ずる自動車事故數は四と言ふ比例を保つてゐると言ふし、殊に三個の區別せられた通路を有する道路の如きが設けられるならば、中央の通路は全く異なる方向に進む車輛が自由に利用する處となるから、車輛の正面衝突を發生せしめる虞は非常に強くなるのである。従つてこの種の危險を避けるためには、通路の數を四又は六と言ふやうに偶數たらしめ、双方の方向に進む車輛は常に同數の通路をもち、且個々の通路と通路との間には、何も何か劃然と分離する設備を用意するに至つたのである。かゝる注意を加へるに及んでも、尙今日道路の中央に於て發生する自動車の衝突は、總ての道路上の衝突事故の中の五分の一を占めると言はれてゐるのであるから、將來の時代に於ては、尙一層の努力を以つて、この種の災害の防止に努めなければならぬ必要は多い。

我國に於ける自動車運送の發達は、勿論アメリカ合衆國に於けるが如き程度に旺盛でないのは事實が示す通りである。殊に支那事變發生以來の所謂戰時下の情勢の然らしめた一つの結果として、

自動車運送は著しい打撃を受け部分的には一種の退歩をすら示したのであるから、自由且思ひのまゝなる自動車の活動と、自動車運送の發達とが圖られ難くなつたのは周知の通りの有様であり、又このこと自體は廣く一般に交通機關の發展を希ふものゝ立場より觀れば、眞に遺憾の至りと思はれるのである。然しながら筆者は右の如き情勢の出現は、決して平時に永久的有様となつて生ずるわけではないと信ずると共に、必ずかくなければならぬ筈であると主張したのである。即ち我國として近い將來に於て支那との間に於ける武力による抗爭は必ず終末を告げるであらうのを信じて疑ふわけには行かず、而も此の如き和平運動の擡頭は幾何もなくして我國の諸情勢を少くとも事變發生の直前の有様に復歸せしめるに相違ないと認められるのであつて、又必ずかくの如き有様を呈せしめるために萬全の努力をしなければならぬと思ふのである。而して一般の大勢がかくなる上は、自動車運送が關係する限りに於ても、これと同様に於て、事變前の状態に等しき事情が回復して來るであらうと信じて差支ないと思ふ。而もかゝる機會に於ては、自動車の運用と、自動車が利用する道路との關係の如何は、最も慎重なる考慮を要する點となるであらうのは、眞に疑を容れる餘地はないのである。かゝる意味に於て、ゲデスが指摘してゐる諸點に一應の注意を拂ふ必要は極めて大きいと認められるのであり、就中自動車が完全なる状態の下に於て通過し得るが如き道路設備の改善に關心を有する人々に對して、「不思議なる自動車道」の一讀を推奨したいと思ふ。(一九四〇七一〇)